

ありがとう 新藤監督

名誉市民 新藤兼人さんご逝去

本市の名誉市民であり、国内で最高
 齢の現役映画監督であった新藤兼人さ
 んが、5月29日にご逝去されました。
 百歳でした。

新藤さんは、昭和26年にデビューし、
 昨年までに49作品を製作しました。こ
 のうちの4作品は、本市で撮影が行わ
 れました。とりわけ、昭和35年に製作
 した「裸の島」では、佐木島の沖合いに
 ある宿禰島を舞台とし、佐木島で合宿
 をしながら撮影が行われました。この
 「裸の島」は、翌36年、モスクワ国際映
 画祭で最高賞を受賞しました。

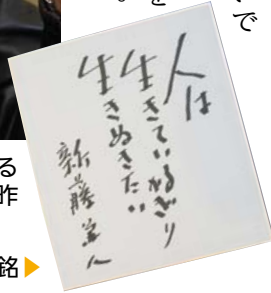
晩年は、「生きていくかぎり生きぬき
 たい」を座右の銘とし、監督人生最後の
 映画「一枚のハガキ」を99歳で製作しま
 した。この映画においても、主人公を
 佐木島の出身という設定にするととも
 に、筆影山から撮影した瀬戸内の景色
 を使用するなど、三原市に対する思い
 の強さを感じ取ることができます。

映画製作に人生の全てを捧げ、まさ
 に、生きぬいた百年の生涯だっ
 たのではないで
 しょうか。心
 からご冥福を
 お祈りします。



▲広報みはらのインタビューに答え、尽きる
 ことのない映画への情熱を語る新藤さん(昨
 年5月19日に撮影)

直筆の座右の銘▶



▲平成14年、文化勲章の受章報告で佐木
 島を訪問。「裸の島」のロケに協力した堀
 本茂行さんと握手を交わす



▲平成15年に開催した新藤兼人ウィークで
 あいさつをする新藤兼人さん(左)。孫の
 風さん(中)、次男の次郎さんとともに

▲左のイベント終了後、筆影山から
 の眺望を楽しむ3人
 写真(3枚)提供:中野義孝さん

広報みはらでは、昨年12月号で新藤
 さんの特集を行いました。そのときに
 紹介できなかったエピソードなどを掲
 載します。

三原の海に眠る乙羽さん

新藤さんの妻で女優の乙羽信子さん
 が、平成6年に亡くなりました。その
 4、5年後、新藤さんは、親族3人で
 三原を訪れ、宿禰島の沖で散骨をしま
 した。

最後は三原の地へ

先月3日、東京都内で新藤さんの葬
 儀がしめやかに営まれました。祭壇は、
 遺族の意向から宿禰島をイメージして
 形作られたそうです。そして、新藤さ
 んの骨の一部も、この三原の地での散
 骨が検討されています。

新藤さん、安らかに

何年たっても、三原市が関
 わった映画は残り続けます。
 そして、最後まで新藤さ
 んの映画に携わった私たち
 のまち三原。
 人の心を強く動かすこと
 ができる力が、この三原市
 にはあるということを教え
 てくれました。
 新藤さん、お疲れ様でし
 た。

